

《担当者名》向谷地生良[ikuyoshi@hoku-i-ryo-u.ac.jp]

【概要】

この授業においては、精神障害を有する人がその人らしく地域で生活できるよう援助する実践能力を習得するプロセスに、当事者研究の経験と発想を活用するためのフィールドワークを積極的に行う。そのための基礎として従来の精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と課題を論文の講読およびディスカッションなどを通じ、実践的に学習し、それを研究に反映させる。

【学修目標】

- 1) 当事者研究の生まれた背景と内容を他の実践モデルとの比較において理解し、説明できる。
- 2) 精神医学の歴史と精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と課題を関連づけて理解し説明できる。
- 3) さまざまな場面で当事者研究の発想を踏まえた実践の展開ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 10	精神障害を持つ人の生活課題とそれに関連する治療、支援モデルに関する先行研究や実践モデルを理解する	1) 木村敏の精神病理学をベースに「こころの病」に関する購読、ディスカッションをする 2) 谷中輝雄の「生活のしずらさ」に関する論文の購読とディスカッションをする 3) 海外における精神障害者の支援モデルに関する先行研究と論文の講読とディスカッションをする	向谷地
11) 25	当事者研究に関する先行研究と実際の研究実践からその可能性と意義を理解する	1) 「当事者研究の研究」について関連した論文を購読し、ディスカッションする 2) 実際の当事者研究の研究内容を分析し、その意義と成果を検証する 3) 当事者研究を臨床において展開し、活用できる	向谷地
26) 30	当事者研究の現状を踏まえて新たな課題を明らかにし、それに向けた実践的な研究課題を構想する	1) 明らかになった当事者研究の課題を自らの実践課題として明確にする 2) 当事者研究の理論的な課題を整理し、自らの研究課題とする	向谷地

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

文献検討20%、計画作成20%、予備調査等の実施20%、論文の内容40%

【教科書】

なし

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

関連文献、資料を読み、ディスカッション等に反映できるような準備が望まれる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、深い学識と高度な実践力、指導的役割の発揮力を修得するという臨床福祉学専攻博士後期（博士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。